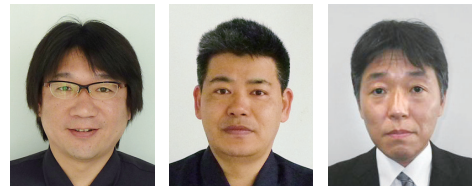


# 2015年10月に発生した 低気圧に伴う釧路港地区の 高潮浸水被害に関する調査



沿岸海洋・防災研究部 沿岸防災研究室

主任研究官 本多 和彦 (主任研究官 (博士 (工学))) 内藤 了二 室長 浅井 正

(キーワード) 高潮、浸水被害、低気圧

## 1. はじめに

2015年10月1日に朝鮮半島を通過した前線を伴った温帯低気圧は、急速に発達しながら日本海を北上し、その後、北海道の西の海上を通過した(10月2日、958hPa)。この低気圧に伴い、釧路港では高潮・高波による浸水被害が発生した。沿岸防災研究室では、高潮等の防災対策の研究を行っており、この浸水被害の原因を究明するため、現地調査を実施した。

## 2. 調査概要

釧路港の東港区および西港区とも浸水被害が発生し、とくに西港区では浸水が広範囲に広がった。浸水範囲(図中の赤線で示す範囲)は約90haであり、岸壁から約400m離れた臨港道路まで到達し(写真-1)、普通車が走行できないほど深く冠水した道路もあった。西港区内の5箇所浸水痕跡を測量した結果、浸水高はT.P. +1.9~2.3mであった。これは、痕跡調査箇所から約4km離れた東港区内の検潮所での記録T.P. +1.02mよりも1m前後も高いものである。

また、西港区では、強風によって係留中の船舶が接触し、岸壁が損傷する被害が発生した(写真-2)。

## 3. おわりに

今回の現地調査により、釧路港内の4km程度しか離れていない2地点間で、1m前後もの潮位の差が生じていたことが判明した。今後は、この2地点間の潮位の差の要因を明らかにし、その知見を高潮防災対策に活かしていきたい。

☞ 詳細情報はこちら

釧路港地域における低気圧に伴う高潮浸水被害調査概要  
<http://www.vsk.nilim.go.jp/oshirase/kisya20151021.pdf>

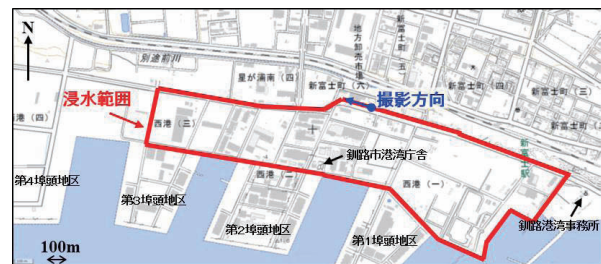


図 西港区浸水範囲



写真-1 西港区浸水状況(撮影方向: 図中青矢印)  
(提供: 釧路市水産港湾部)

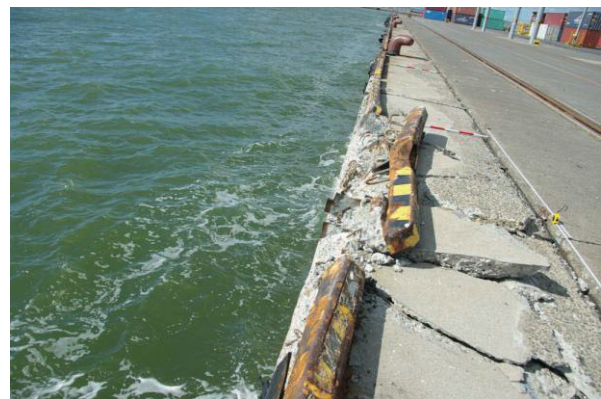


写真-2 西港区岸壁被災状況  
(提供: 北海道開発局釧路港湾事務所)